

平成 27 年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価）平成 27 年 9 月

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの各目標値はほぼ達成し、生徒対象「入学して良かった」、保護者対象「入学させて良かった」へはいずれも96%の肯定的回答を得た。 ・生徒授業アンケートの「授業満足度」は3.3～3.4/4.0であり、目標値を達成した。 ・府立高校特色化事業を活用した各種講演会、国際交流会等様々な取組を通して国際理解が深まった。特に2名の著名な本校卒業生を招いてのキャリア教育講演会は大変有意義であった。 ・新たな取組により、新入生の部活動加入率は86%と向上した。 ・いじめ事象へは早期発見、早期対応で早期に解決することができた。 ・厳しい就職状況の中、1次試験で就職内定率100%を達成した。 ・国公立4大へは推薦10名を含め、延べ36名が合格した。 ・教育相談への教職員全体の意識は向上し、積極的にSCを活用した。 ・大会議室活用の工夫などにより、積極的に情報視聴覚機器を活用した。 ・峰高だよりは年間16回発行、お知らせメールは93回配信、その他各種たよりの発行などにより積極的広報活動を行った。 ・夏季面談はPTA共催のもと96%の保護者と面談を行った。 ・京都産業21の最先端機器の活用など、地元関連企業等との連携によりハイレベルな技能に触れることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 ・各種コンテスト等及び地域活動100への参加啓発 ・5分前登校の徹底（常習的遅刻者への対応） ・自主学習習慣の定着と学力中間層生徒の学力向上 ・校内外の継続的な服装、頭髪及び交通マナーの指導（学年部との連携） ・共通理解を図るための効果的な教職員研修会の設定 ・生徒会による自主活動の活性化とボランティア活動への意識啓発 ・各指導における関係分掌と学年部との連携強化 ・教職員、生徒の美化清掃への意識改革 ・図書館の貸出冊数増加に向けた啓発活動 ・校内LANの整備等、情報セキュリティー対策の向上 ・効果的な広報活動と家庭との連携 ・専門学科の校内を含む効果的な広報 	<p>1 府立高校特色化事業の取組等を通して国際社会に貢献できるリーダーを育てる。</p> <p>2 授業規律、自主学習習慣の定着及び授業改善に取り組み、学習の質の向上を図る。 （学力中間層生徒の学力向上）</p> <p>3 高い理想を持って将来を展望し、主体的に自己の進路実現を図ろうとする態度と力を育てる。</p> <p>4 人権・規範・美化意識を高めるため、全教職員が一致した指導を行う。 （校内外の身だしなみ、交通マナーの向上）</p> <p>5 部活動、特別活動、ボランティア活動の活性化と学習との両立を図る。</p> <p>6 生徒理解を深め、個に応じた支援を行う。</p> <p>7 多様な広報活動等により家庭、地域との連携を密にする。</p> <p>8 地元産業界との連携等により、ものづくりへの意識を向上させる。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
府立高校特色 化事業「グロー バルネットワ ーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクトによる学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテストへの参加、検定受検を促す。 【参加、受検人数 延べ1,100名以上】 「科学の教室」への参加者を増加させる。 【参加人数 延べ100名以上】 高天連携事業への参加を促す。 【参加人数 延べ50名以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各事業への参加者は増加しており、引き続き、各教科等のより積極的な働きかけが必要である。 科学の教室は、生徒の意欲を高める効果的な機会となっている。参加態勢の工夫、声かけ等、さらなる働きかけが必要である。 高大連携事業は連携指定校（京大等）となり取り組みやすくなった。 部活動単位のボランティア活動への参加等、工夫が必要である。
	コミュニケーション・プロジェクトによるコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や企業人、留学生と交流する。 	B	
	コミュニティ・プロジェクトによる社会貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動100」と題し、地域と一体となった取組を推進する。 【地域活動参加事業数 100以上】 	C	
学習指導 (学力向上)	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻防止週間を設け、教務部・学年部・生徒指導部が連携して始業5分前登校を徹底させる。 【1日平均遅刻者数 6.5人以内】 各学期に授業規律向上週間や学習時間調査等を実施し、教科・学年が連携して積極的に学習する態度を育て、学習時間の延長を図る。 【自主学習時間調査 1日2時間】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻に対する生徒の意識は高いが、繰り返す生徒への効果的な継続指導が必要である。 授業規律向上週間は効果的であるが、日常的取組にすることが課題である。 自主学習時間は伸びてきている。受け身から主体的学習につながる意識啓発が必要である。 1、2年生は学力中間層が厚く順調に学力を伸ばしている。さらなる意識付けの強化が必要である。
	学力中間層の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 教務部・教科・学年部の協議により、学力中間層の学力向上に向けた方策を探る。 【〈生徒アンケート〉「学力向上の取組が充実」「きめ細かな指導」肯定率85%以上】 	B	
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業週間及び教職員研修を効果的に運用する。 【〈授業アンケート〉「授業に満足 全体平均3.2 / 4.0以上】 	B	
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により服装、頭髪指導を徹底する。 【遅刻・生活指導立ち番 常時10名】 学年部と生徒指導部との連携を密にし、問題事象の未然防止に努める。 【学年会での情報交換 学期2回】 アンケート下の活用により、いじめ事象の未然防止に努める。 【いじめ事象件数0件】 研修会による教職員間の意思疎通を図る。 【年間1回】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教員の積極的参加によるきめ細かな校門指導を行うことができた。身だしなみ向上週間は学年部と連携した効果的な取組となったが、定着できない生徒への個別指導が課題である。 「生徒指導部だより」の継続発行は指導内容の共有に効果的であった。 生活アンケートは問題行動の未然防止につながった。 生徒会活動はさらに主体的取組につなげる必要がある。 部活動加入率は昨年度を下回った。加入率向上の効果的方策を検討の必要がある。 多くの生徒が意欲的にボランティア活動に取り組んだ。活動状況の幅広い情報発信も必要である。
			A	
			B	
			B	
	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 通常の生徒会行事に加え、生徒会主催の自主活動による取組を実施する。 【年間5つ以上】 学年部、生徒指導部が連携し、部活動の加入率を向上させる。 【新入生部活動加入率 85%以上】 ボランティア活動参加者の増加に向けた広報活動を充実させる。 【参加人数 延べ130名以上】 	B	
			B	

進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 就職情報や入試動向の情報を正確かつタイムリーに提供する。 進路指導部と学年との連携を強化する。 【国公立大合格者 延べ35名以上 就職希望者 全員内定】 【進路検討会 年間4回以上】 【進路担任面談 年間3回以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現に向けた学年部と進路部間の連携は良好である。教科を含めたさらなる双方向の情報交流が必要である。 就職試験は7割が1次内定を得た。様々な取組を通して生徒の進路意識は向上している。 キャリア教育は学年目標との関連、1年次の講演の持ち方、早期からの実施等、より効果的な取組となるための検討が必要である。
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年進行とともにキャリア教育の目標設定を明確にし、それを達成する。 1年：職業意識を高める【講演会 2回以上】 2年：希望進路先について詳しく調べる 3年：将来を見据えた進路決定を実現させる 【進路説明会、講演会 10回以上】 	B	
人権教育	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 生徒の実態や社会の状況に応じた人権学習を計画し実施する。 【〈生徒アンケート〉「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習は計画的、効果的に行うことができた。人権学習以外の教育活動におけるさらなる人権教育を意識した指導につなげる必要がある。
健康・安全指導	心身の健康を求める生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより等の発行により、積極的に啓発する。 【生徒向け 年間12回以上 教員向け 10回以上】 不調を訴える生徒に適切に対応する。 【保健室来室者数 全生徒数の60%以内】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な保健だよりの発行等によるきめ細かな情報発信ができた。 清掃活動は委員会の呼びかけ等、改善したが十分とはいえない。美化意識の啓発に向けた強化が必要である。 教育相談会議は充実したものとなっている。 カウンセリング希望者は例年に比べて多い。
	環境美化に協力し、安全な生活を求める生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動や行事を活性化させる。 【〈生徒アンケート〉「美化、清掃が行き届いた教育環境」 肯定率80%以上】 委員会活動による安全指導を強化する。 【登校指導と校内巡回 週1回】 	B	
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を適切に開催する。 【定例会議 10回】 カウンセリングを受けやすい環境をつくる。 【カウンセラーとの打合せ 月2回】 	B	
			A	
図書・情報活動	本を読み親しむ生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりや特別展示等の広報活動や、読書週間の取組を通じて貸出数を増加させる。 【貸出数 一人年間5冊以上】 図書委員会を活用して読書活動を推進する取組を企画する。 【年間6回】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりの発行、新着図書や館内企画の広報等、趣向を凝らした取組がなされたが、貸出冊数増加につながっていない。各教科、担任からの声かけや委員会活動、読書週間の活用等、さらなる啓発が必要である。 大会議室の視聴覚機器の常設等、情報機器の環境整備が進んでいる。授業活用に向けた実践研修などの検討も必要である。
	情報視聴覚機器を活用した教育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 授業や様々な行事において、情報視聴覚機器を積極的かつ効果的に活用し教育効果を高める。 【教員アンケート 肯定率80%以上】 	B	
	安全・便利な校内LAN体制の構築による教育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ意識と情報活用能力を高める。 【教職員研修 年1回以上】 	B	
			B	

家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新を随時行う。部活動や検定・コンテストの広報をより充実させる。 ・「峰高だより」を月1回以上発行する。 【〈保護者アンケート〉「広報活動が充実」肯定率80%以上】 【峰高だより 年間12回以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各媒体を活用した情報発信がタイムリーに行われた。HPは年間を通じた迅速な更新が必要である。新聞を通じた積極的広報活動が課題である。 ・三者面談、PTA総会、進路講座等で保護者の積極的参加を得た。特に学校祭でのPTA模擬店は盛大であった。 ・お知らせメールは効果的に配信されているが、保護者の加入率上昇が課題である。
	地域・保護者・PTAとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 ・お知らせメールにより、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【〈保護者アンケート〉「家庭と担任や学校との連携」肯定率75%以上】 	A	
特色ある専門学科	地元産業界との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ受入企業数を増加させる。 【17社以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業見学等により職業意識の向上を図る。 【関係進路 半数以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の求人数増加に向け取り組む。 【4社以上】 	B	